

## 平成 28 年度 「臨地実習教育会議」 レポート

3月15日、例年行われている「臨地実習教育会議」が大学で行われました。この会議は、看護学各領域の実習施設と福島県立医科大学看護学部が協働で看護学生を育てるために、実習の振り返りや今後の課題について共有する貴重な機会となっています。県内各地の30近くの実習施設から全体会に81名、各領域の分科会に86名の方が参加してくださいました。

前半の全体会では、本年度実施した実習の現状を共有・討議し、実習施設と看護学部のより良い連携・協働の在り方について考える目的において、5人の発表者に登壇していただきました。

まず、高齢者実習領域では、看護学部教員より実習体制や実習目的達成のために工夫している指導法などの報告がなされました。次に病院の実習指導者から指導者－スタッフ間の実習指導の連携についてシートを活用するなどの工夫をしていることなどが発表されました。訪問看護ステーションの指導者からは、体系的な実習指導の計画と実施の詳細が述べられました。成人慢性期看護領域から、看護学部教員より統合実習において、4年間の学びを集大成するために学生個々の課題に沿った実習や実習中の生活に及ぶ指導援助について報告がなされました。病院の実習指導者からは、実習指導記録の運用に課題があったが、翌日への申し送り事項に学生の様子や指導した内容を記載する欄を設けるなど改善することで、病棟スタッフ間の共有につながった旨が発表されました。

発表後のディスカッションは、活発に行われ、主に実習指導態勢や指導者間の連携、連絡シートや実習指導記録の活用、指導者の育成について話し合われました。どの施設でも、指導者の数は十分とは言えず、今後もその対策を講じていく必要性が共有されています。

全体会の後には、それぞれの専門領域に分かれて分科会が行われました。本年度の実習を振り返り、課題を共有して次年度の実習指導に活かしていく機会となりました。

